

実れ農村大学校

甘楽富岡 地元農家らが設立

JICA(国際協力機構)の青年海外協力隊候補生の農業実習などを受け入れてきた富岡・甘楽地域の農家らが、「甘楽富岡農村大学校」を設立した。この地域を舞台に様々な人たちが交流し、歴史や文化も学べる場所を提供することが狙いだ。

JAG甘楽富岡の青年部が中心となって、途上国に派遣される前の候補生たちを受け入れるようになったのは3年前。候補生たちは6カ月の期間中、富岡市内の農協の施設に寝泊まりしながら、農家で野菜づくりなどの研修を受ける。これまでに20人を超す研修生が巣立っていった。

JICAと農家の橋渡し役は、この地域に拠点を置く協力隊OBらでつくるNPO法人「自然塾寺子屋」(矢島亮一理事長)が務めてきた。



研修・交流「農業の故郷に」

パナマに派遣されたことがある高崎出身の矢島さん(44)は、JICAの研修生が帰国後に学べる場所を探してきたが、県内のあちこちで断られてくれたのがJAG甘楽富岡の青年部の部長、白石義行さん(43)だった。

農村大学校には約60人の地域の人たちがかかわる。これまでの研修生の受け入れを中心に、新たに就農を希望する人たちや農村の現状を学びたい学生の支援など、地域に密着した活動を目指す。

校長を引き受けた白石さんは就農して20年余り。「研修生たちは知識もあり、刺激になる。それに、教えることで自分の経営もしっかりやらなくては、と頑張れる。多くの人に仲間になってもらい、地域でいろいろな事を学び、みんなでいい地域にしていきたい」と話す。

19日には、JAG甘楽富岡で研修生4人が6カ月間の研修を終えるにあたっての報告会が開かれた。4人は、受け入れ先の農家や農協、市役所関係者約30人を前に成果や失敗談などを話した。白石さんは「きょうからがスタート。甘楽富岡を第二のふるさととして、また来てほしい」と4人を送りだした。10月からは、新たな研修生4人がやってくる。

青年海外協力隊候補生たちが報告する研修の成果に、受け入れ農家の人たちが耳を傾けた。富岡市のJAG甘楽富岡

群馬

前橋総局

〒371-0026

前橋市大手町2-4-9

☎ 027-221-1101

fax 027-223-1334

太田支局

〒373-0818

太田市小舞木町445

☎ 0276-45-1141

高崎支局

〒370-0861

高崎市八千代町2-17-6

☎ 027-327-3001

桐生 ☎ 0277-22-2912

沼田 ☎ 0278-22-2403

渋川 ☎ 0279-23-6633

群馬アサヒコム

http://mytown.asahi.com/gunma/